

# タンチョウ博士のお話（第2回）

いよいよ今月号から、皆さんからいただいた質問にタンチョウ博士こと正富宏之（まさとみ ひろゆき）先生〔専修大学北海道短期大学名誉教授〕が答えるコーナーがスタートします。

今回は「どうしてタンチョウという名前なのですか？（名前の由来）」「名前を誰がつけたか？」についてです。

名前の由来の質問は、〔中小〕朝日さん・鈴木空さん、〔北小〕真田千穂さん・鳥井幸汰さん・建名美玖さん、〔南小〕山本達也さん、〔西小〕井上ほのさん、〔長中〕前多さくらさん・大谷るこさんから、誰がつけたかの質問は、〔北小〕K・Sさんからいただきました。

## ○君（きみ）の名は？

むかし、と言っても、今から65年前（昭和27年）のこと。NHKラジオで連続ドラマ放送され、その時刻は、銭湯（風呂屋）の女湯から人がいなくなる、と言われるほどの人気でした。

当時、風呂が家にある（内風呂）ことは少なく、お風呂屋さんかぎわっていた時代です。放送時刻に家でラジオを聞くため、風呂どこでなかったのです。このドラマは、その後映画にもなり、これまた大ヒット。その題名が「君の名は」です。が、今は同じ題名の長編アニメ映画のほうに、なじみがあるでしょう。立花瀧（たちばな たき）と宮水三葉（みやみず みつは）がアニメの主人公の名前です。

さて、相手のことを知りたいときは、まず名前を知りたいですね。反対に、自分のことを知ってもらいたいときは、はじめに自分の名前を言います。

では始めるよ。ぼくの名前は「タンチョウ」です。ついでに、名前はカナで書いてあるけど、生き物の名前は、カナ書きにするのが普通だからです。これを漢字にすると、丹（たん）と頂（ちょう）と二つの文字になります。

丹は「赤い」色のことで、頂は「てっぺん」とか「いちばん上」のことです。山の頂上（ちょうじょう）とか頂（いただき）などと言うね。写真を見てください。頭のてっぺんは赤く、とてもめだちます。そのため、ぼくは「タンチョウ」（赤いあたま）と呼ばれるようになったのです。



写真：タンチョウの頭  
（撮影：正富宏之）

ところで、皆さんの名前は、誰につけてもらいましたか？お父さん？お母さん？それとも、おじいさんやおばあさん？

ぼくの名前には、440年ほど前の中国の人が、どうやら関係するようです。その人の名は李時珍（りじちん）。明という国の医者で、生物学者でもありました。この人の書いた本草綱目（ほんぞうこうもく）という本に「赤いあたま（丹頂＝中国の発音はタンディン）のツルがいる」と書いてあります。これが日本へ伝えられ、赤いあたまのぼくの名前になり、読み方も日本式に「タンチョウ」となったのさ。

からだの部分の特徴（とくちょう）で、名前がついたツルはほかにもいるよ。例えば、尾羽（おばね）が黒いので「オグロヅル」、全身が白くてアメリカにいるので「アメリカシロヅル」というぐあい。

実は、ぼくはもう1つ名前を持っています。例えば、ぼくのことをアメリカ人やロシア人に「ツル」と言っても、通じません。アメリカ人には「クレーン」、ロシア人には「ジュラブリ」と言わないとダメです。つまり、世界中の人が方言（民族の言葉）でぼくを呼んでいます。

各国の人が集まってぼくの話をするとき、これは不便です。そこで、世界共通の名前をぼくに付けました。名前はラテン語かラテン語風にする決まりなので、ぼくばグルス・ヤポネンシスと言います。前が「姓」にあたるラテン語 *Grus* で、ツルの意味です。後ろが「名」にあたり、*japonensis* と書きます。何か似た言葉を連想しませんか。そう、英語のジャパニーズです。つまり、ぼくの世界共通名（学名）の意味は、「ツル・日本（産）の」です。まさに日本を代表するツルなのです（エヘン!）。ちなみに、こちらの名付け親は、ドイツ人のミュラーという動物学者で、1766年のことでした。

ついでに、ぼくと同じタンチョウと呼ばれる動物が、ほかにもいます。何かご存じですか。えーと…答えは次回に。（文：正富宏之）